平成３０年度
学校だより
特別号
学力学習状況調査結果

甲府市立羽黒小学校
羽黒の子
H３０．９．２１　発行　校長：戸澤智紀

＝＝ 学校教育目標 ＝＝
「確かな学力を身につけ、心豊かで、
心身ともにたくましい子どもの育成」

～めざす子どもの姿～
○自ら進んで学ぶ子ども
○思い遣りをもち、助けあう子ども
○心も体も健康で命を大切にする子ども

本校の学力・学習状況調査の結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は，４月１７日（火）に全国の小中学校において実施されました。

本年度の全国学力・学習状況調査の調査内容は以下のような構成となっています。

①教科に関する問題
国語科…A問題：主として「知識」に関する問題，B問題：主として「活用」に関する問題
算数科…A問題：主として「知識」に関する問題，B問題：主として「活用」に関する問題
理科……主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題　3年に一度の実施
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

この調査の目的は，本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し，各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより，今後の指導内容や指導方法の改善，生活指導などに生かしていくことにあります。

去る７月２７日に文部科学省から本校児童の調査結果が送付されてきました。本校では，学校行事への取り組みと並行して，入念に調査結果について分析を行ってまいりました。このたび，分析が終了いたしましたので，その概要を保護者の皆様にお知らせすることと致しました。（本校のHPにおいても同じ内容について公表をおこないます。）

なお，調査に参加しました６年生児童については，４月の調査終了後，答え合わせをすませておりますが，調査結果の個人票を配付し，改めて本調査における自分なりの課題について考える時間を持たせた上で，持ち帰るようにしていく予定です。

分析結果の概要

１　本校の教科に関する問題の状況（全国・山梨県との比較）

本調査における結果については，山梨県教育委員会による分析にもある通り，全国平均正答率との差が±５%の範囲にある場合は，全国平均とほぼ同等であると考えております。
本校の教科に関する問題の結果は，次のようになっています。

①国語Ａ：全国平均を大きく上回っております。　②算数Ａ：全国平均を大きく上回っております。
③国語Ｂ：全国平均を大きく上回っております。　④算数Ｂ：全国平均を上回っています。
⑤理科　：全国平均を大きく上回っております。

以上の結果からは，３教科全てにおいて「知識」面の定着がよいことや，複数の情報を読み取りながら回答するような「活用」問題に根気よく取り組むことができてきていることがわかります。

【参考資料】　教科別平均正答率（全国・山梨県）

	国語Ａ　正答率	国語Ｂ　正答率	算数Ａ　正答率	算数Ｂ　正答率	理科　平均点
全国　平均	７０．７	５４．７	６３．５	５０	６０．３
山梨県平均	７１	５４	６２	５１．５	６０

２　本校の教科に関する問題における主な課題

全ての教科において，全国平均を上回っていますが，今後，さらに学力を向上させていくために，課題となる点について抽出してみました。（正答率の低い問題について３つずつ抽出してい

ます）
【国語】
Ａ問題：主として「知識」に関する問題
○文の中における主語と述語との関係などに注意して，文を正しく書き直す問題
○相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる問題
○既習漢字を文の中で正しく書く問題（「積極的」と書く）

Ｂ問題：主として「活用」に関する問題
○目的や意図に応じ，内容の中心を明確にして，詳しく書くことができるかどうかをみる問題
○話し手の意図をとらえながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるかどうかをみる問題
○目的に応じて，複数の本や文章などを選んで読むことができるかどうかをみる問題

【算数】

Ａ問題：主として「知識」に関する問題
○円周率の意味について理解しているかどうかをみる問題
○直径の長さと円周の長さの関係について理解しているかどうかをみる問題
○百分率を求めることができるかどうかをみる問題

Ｂ問題：主として「活用」に関する問題
○メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け，総数や変化に着目していることを解釈し，それを言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題
○一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを，適切に判断することができるかどうかをみる問題
○折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を，枚数，本数，個数などの数量を関連付け，根拠を明確にして式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

【理科】
○より妥当な考えをつくりだすために，実験結果を基に分析して考察し，その内容を記述できるかどうかをみる問題
○物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できるかどうかをみる問題
○実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し，その内容を記述できるかどうかをみる問題

３　各教科における主な課題を改善するための手だて
【国語】
☆さまざまな言語活動において，その目的を自覚させ，効果的な言葉の使い方を考えさせたり，自分の考えを形成するのに必要な情報の収集にあたらせたりする。
☆主語と述語の関係に留意させることや，漢字を文の中で使用させることについて，日々の学習指導において意識させるようにする。
【算数】
☆複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し，表現することや，グラフの特徴を理解し，複数のグラフから読み取ることができることを適切に判断することといった活動を取り入れる。
☆複数の情報を関連付けて筋道だてて考えたり，判断の理由を式や言葉を使って表現したりする活動を取り入れる。
☆既習事項を忘れてしまわないようにするための取り組みを取り入れる。
【理科】
☆実験の条件をきちんと理解させ，その結果から身近な生活において起こりうる事象と関連づけさせる指導の工夫を図る。
☆視覚的にとらえられない内容については，重さをはかり定量的な見方を働かせたり，絵や図を用いて表現したりするなどして，児童にとらえやすいように指導の工夫を図る

☆実際に行った実験・観察の結果から結論として「言えること」と「言えないこと」をきちんと分けて考える態度を育てるようにする

４　質問紙調査の結果から見られる特徴

本校児童の生活習慣や家庭学習などの状況から特徴として挙げられる点についてまとめます。

【規範意識・自己有用感等について】

○「将来の夢を持っているか」「学校のきまりを守っているか」「人の役に立つ人間になりたいか」等を始めとし，６問中５問において肯定的な回答が90%を超えています。一方「自分には，よいところがあると思うか」という問いでは，25%を超える児童が否定的な回答をしています。

【基本的生活習慣等について】

○「毎日同じくらいの時刻に寝ているか」という問いには83.9%，「毎日同じくらいの時刻に起きているか」という問いには，94.6%が肯定的な回答をしています。

○「朝食を毎朝食べているか」という問いには，98.2%が肯定的な回答をしています。

○「放課後の過ごし方」（複数回答）では，「家でテレビやビデオ・DVDを見たり，ゲームやインターネットをしたりする」「友達と遊ぶ」が同数で１・２位。「家族と過ごす」が３位となっています。

○「週末の過ごし方」（複数回答）では，「家族と過ごす」が１位。続いて「家でテレビやビデオ・DVDを見たり，ゲームやインターネットをしたりする」が２位。「家で勉強や読書をする」「友達と遊ぶ」が同数で３位となっています。

【学習習慣等について】

○「家で宿題をしているか」という問いでは，95%近くの児童が肯定的な回答をしています。一方，「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」「家で，学校の授業の予習・復習をしているか」という問いでは，肯定的な回答は70%近くにとどまっています。

○平日の家庭学習の時間については，「１時間以上」が58.9%。このうち，「３時間以上」が8.9%。「30分以下」あるいは「全くしない」は14.2%となっています。

○平日の読書に使う時間については，「30分以上」が50%。このうち「２時間以上」が3.5%。「30分未満」あるいは「全くしない」は50%となっています。

【地域や社会に関わる活動の実施状況等について】

○「地域の行事への参加」については，66.1%が肯定的な回答をしています。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があるか」では，75%が肯定的な回答をしていあます。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがあるか」では，53.6%が肯定的な回答をしています。

○「地域社会などでボランティア活動に参加したことがあるか」では，76.8%が肯定的な回答をしています。

５　質問紙調査の結果から改善していきたいと考えられる点

【規範意識・自己有用感等について】

☆規範意識も高く，「社会のために役立つ人になりたい」という思いをもつ児童もとても多いという一方で，自己有用感をもてていない児童が少なからずいます。「自分のしたことが誰かのためになった」という体験を数多くさせるなかで，自信をもたせるようにしていきたいと考えます。

【基本的生活習慣等について】

☆「早寝・早起き・朝ご飯」についてはとても良いと考えますが，さらに向上させるためには，「早寝」「早起き」について，「自分で」という意識を持たせたいところです。とりわけ，「自分で起きる」ということが自立に向け大切な観点になってきます。

☆放課後や週末の過ごし方についての回答の中で，テレビ・ゲーム・ネット機器などを使う時間（メディア接触時間）が多いことが懸念されます。これらについても意識的に短くしていくことが大切であると考えます。

【学習習慣等について】
☆中学校生活に向け，授業の予習・復習ということについての意識づけを行っていきたいと考えます。
☆家庭学習の時間についても，宿題を含んで（１０分×学年）時間程度は習慣づけるようにしたいものです。

【地域や社会に関わる活動の実施状況等について】
☆地域社会との関わりは，学年進行に伴い学校や塾・スポーツ活動などのために希薄になりがちです。機会をとらえて行事などに参加できるようにご家庭でも声かけをお願いします。
☆「接続可能な社会づくりの担い手」として成長していく子どもたちにとって「地球規模で考え、足元から行動せよ」（Think globally，act locally）という姿勢が求められていきます。地域社会の問題への関心や地域社会が抱える課題について考えることは，こうした姿勢をつくるための第一歩となります。学校・家庭の双方において子どもたちと話し合うようなことができればと考えます。

<u>５　授業を楽しくするために</u>（Ｈ２９．１０．３１発行羽黒っ子より）
学校の楽しさはテーマパーク等で味わえる楽しさとは全く別物です。

※「考える」ことが「楽しい」ことへ

学校の生活の大部分は授業時間が占めています。授業がおもしろいと学校が楽しい，ということにつながります。では授業のおもしろさとは何か，と言ったら「わかるようになること」「できるようになること」等々ですが，その根底にあるのは，「考える」という楽しさではないでしょうか。クイズ番組の楽しさはまさに「考える楽しさ」そして「正解する心地よさ」です。

クイズ番組は視聴者のターゲットを絞り「考えればできそうな問題」や「思い出せばわかりそうな問題」を出します。簡単すぎたり難しすぎたりしては「考える」ことをしません。出題されてから答えが出されるまで，視聴者は一生懸命考えます。その時に CM が流れる場合がありますが，その時間はあっという間に感じます。

授業も似たところがあって，子供たちは興味や必要感のないことは考えません。

ですから，授業ではまず，興味を持たせることから始めます。そして「考えればわかりそうだ，考えてみたい」「やればできそうだ，やってみたい」という意欲を持たせ，授業をスタートさせるというのがスタンダードです。

※確かな知識にするために

要するに学校での「楽しさ」とは「考えたくなったことを考える」「知りたくなったことを調べる」「やりたくなったことをやってみる」等々です。クラスの友達と考えをぶつけ合って・協力してチャレンジして，課題をクリアしていく，そして真理を掴み取っていくことで日々成長していきます。さらに学んだことにより興味を持ち，自分で家庭に帰ってから調べたり研究したりするようになったらこれはすばらしいことです。

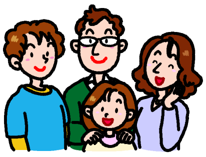
「考える」「チャレンジする」という，自ら考え取り組んだ努力や苦労をして掴み取ったものは確かな学力として定着し「ここぞ」という時に役に立ちます。

そうした授業であるために，教師は子供たちの実態を把握し，教材を研究し，教具を準備し日々取り組んでいます。

※家庭へのお願い

しかし学校でいくら準備をしても，子供たちが，心身ともに健康な状態で授業に臨むことができなかったら，せっかくの学校生活も「楽しい」ものとはなりません。

特に，体の部分で言えば，睡眠不足であったり，体調不良であったり，さらには心の部分で言えば，悩み事があったり寂しすぎる状態であったりすると集中力を奪われて，授業が退屈で息苦しいものとなってしまう場合があります。学校では子供たちが，しっかりとした規範意識を築き上げながら，さまざまな個性が集まる集団の中で自分らしさを発揮できるように指導を重ね，学校内での悩み事を解決できるように指導していきます。



ぜひご家庭でも，子供たちが心身ともにリフレッシュできる環境に心がけていただき，子供たちの学力はもとより生きる力のさらなる育成にご協力をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。